

第1回:2015年度の活動報告と課題

フィルムセンターが「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」に取り組み、本事業が「BDCプロジェクト」として始動したことは本誌第121号(2015年6月～7月号)で既報の通りである。まず同号では、その活動が以下4つの基本的な柱からなることを主幹の岡島尚志が示した。

- ①デジタル映画の保存・活用に関する調査研究
- ②フィルム映画のデジタル保存・活用に関する調査研究
- ③諸外国におけるデジタル映画の保存に関する技術や法制度などに関する調査研究
- ④映画のデジタル保存・活用を担う人材育成

さらに同号においては、BDCプロジェクトについて、フィルムセンターの従来業務を踏まえた形で、2014年度の調査研究活動の報告とともに具体的活動の方向性を示した(「映画のデジタル保存についての現状調査の必要性」)。

今号では、プロジェクトのスタート1年半を迎えるにあたり、これまでの取り組みを以下の表にまとめた。と同時に、今後このニューズレターのTOPICS欄において、継続的にBDCプロジェクトの活動を紹介していくこととなった。第一回は、2015年度の主な取り組みと、これまでの経緯について報告する。

①2014年度から、「持続可能なデジタルアーカイブシステム」の構築に向け、国内フィルムアーカイブや製作者団体への調査を継続してきたが、その中で、映画、映像関係者(コンテンツサイド)とICT関係者(技術サイド)の間の情報共有が重要であることが認識された。そこで2015年度においては、前記関係者に有識者を加え、合同会議を開催した。その結果、保存に関して標準化や共通化が重要であること、コスト負担のモデルが無いこと、保存システムに関する研究は、活用が中心で長期保存に関する取り組みが少ないこと、単一の組織では長期保存の検討は困難であることなどの課題が浮き彫りになるとともに、課題の共有化が行われた。

②フィルム作品は、各アーカイブで大切に保管されているが、今

後、ますます上映環境は減少していくと予想される一方、これらの貴重なコンテンツはデジタル化により、桁違いに多くの人に開放することができる。BDCプロジェクトにおいても、戦前アニメーションフィルムのデジタル化、存在が確認されている日本最古の二色式カラー映画『千人針』(三枝源次郎監督、1937年)のデジタル復元、映画ポスターのデジタル化などに取り組んでいる。今後さらに、フィルム作品のデジタル化と公開、活用を推進したいと考えているが、コストと品質、デジタル化可能な量を考慮した調査研究が必要である。この点については今後、コレクションベースの事業プランを立てていかねばならない。

③海外調査の結果では、ICT先進国であり、メジャーの資金力を有するハリウッドでは、巨額のインフラ投資がなされている。また、文化資産保存への意識が高い欧州でも、西欧、北

欧を中心に早くからデジタル化が進められており、ウェブ公開も行われている。これらの実例を参考に、保存・活用システムの実証的な研究も開始した。各国の状況については今後も学んでいかなければならないが、各国フィルムアーカイブの調査からわかったことの一つとして、各アーカイブでは、スキャンからデジタルデータのハンドリングまでアーカイブ組織内で行っていることが挙げられる。この点について、今後どこまでフィルムセンターが導入するかは、検討課題となるであろう。

④今後の急速なデジタル化とその継続的な進展に対応するためには、専門的な知識や技術を有する人材の育成が最重要課題の一つであることが指摘されている。そこで2015年度においては、表に記載のようなセミナーを積極的に実施した。今後も継続、あるいは新規テーマについても検討していきたい。(KO)

2014年度		2015年度
①デジタル映画の保存・活用に関する調査研究		
映画デジタル化調査	デジタル映画の動向調査(2009年)	デジタル映画の動向調査(2010、11、14年)
ボーン・デジタル作品の保存・復元技術研究	デジタル映像データの変換 ・「国宝出雲大社御本殿 記録映像」 ・「嗚呼 満蒙開拓団」	ボーン・デジタル作品からのDCP作成 ・「終りなければすべし」他3作品
映像検証設備の整備	デジタル映像データ再生機器の導入 HDCAM-SRデジタルレコーダー他映像機器の導入	記録媒体管理システムの構築に関する調査研究(テープライブラリ装置/コンテンツ管理システム導入) 情報セキュリティポリシー調査研究
持続可能システム研究	持続可能なデジタルアーカイブシステムに必要な要件に関する研究	持続可能なデジタル映画保存プラットフォーム課題抽出と実証研究
標準化・規格化調査	DCIにおけるデジタルシネマ技術の標準化動向に係る調査 デジタルシネマの制作・流通のファイルフォーマットに関する動向調査 デジタル映像の制作・流通のファイルフォーマットに関する動向調査	デジタルメディア記録票の標準化調査報告
メタデータ技術研究		メタデータスキーマ調査研究
②フィルム映画のデジタル保存・活用に関する調査研究		
フィルム作品、アナログ資料などのデジタル化	フィルム映画のデジタル化 ・映画フィルム『教育お伽漫画 兎と亀』他、戦前アニメーション作品デジタル化 ・「日本南極探検」デジタル復元 ポスター資料のデジタル化調査 DCP作成(『国士無双』、『紅葉狩』等) デジタルベータカムテープのDVD変換	映画フィルム『教育お伽漫画 兎と亀』他、戦前アニメーション作品のデジタル修復とグレーディング及び配信用ファイル化 『千人針』デジタル復元 ポスター資料のデジタル化実証検証 スチル資料のデジタル化調査
③諸外国におけるデジタル映画の保存に関する技術や法制度などに関する調査研究		
海外調査	AMIA(The Association of Moving Image Archivists) Conference参加報告 米国東海岸調査報告 米国西海岸調査報告 EFG(European Film Gateway)動向調査	欧州調査報告 大洋州/メキシコ調査報告 英国BFI(British Film Institute)研修報告 オランダS&V(Sound and Vision)研修報告
国内調査	映画業界アンケート調査とインタビュー 国内フィルムアーカイブへのアンケート調査とインタビュー	独立系製作会社アンケート調査とヒアリング
法制度の調査		映画の法定納入制度に関する調査 フィルムアーカイブに関わる著作権改正などの動向調査
④映画のデジタル保存・活用を担う人材育成		
人材育成		各種セミナーの実施 ・「映画・映像データの取り扱い、仕組みと実際」 ・「映画のメタデータに関する動向調査」 ・「デジタル映画の保存と活用に関する著作権リフォムの動向」
情報共有化	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別講演会 国内公的フィルムアーカイブ合同会議における意見交換会	「デジタル・ジレンマ2」(映画芸術科学アカデミー著)の翻訳監修 ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント セミナーなど講演、投稿